

学校教育目標
夢をもち 個性をみがく 優しい子どもの育成 ーたすけあう くじけない すずんでまなぶー

4 (目標を上回る達成) 3 (達成・概ね達成) 2 (目標を下回る未達成) 1 (目標を大きく下回る未達成)

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための の方策	評価項目 (数値目標)	評価指標	評価方法	評価基準				担当	評価		短期経営目標の達成状況
							4	3	2	1		9月	2月	
確かな学力	◎主体的に学ぶ児童の育成	基礎学力を向上させる。	●みのりタイムの計画的・継続的実施 ●学力検査結果を活用した授業改善	・CRT検査の結果で学年平均が全国平均を上回る。 ・単元テストで平均80点以上の児童を65%以上にする。	CRT検査の結果(全国平均との差) 学期の単元テストの平均点	1-6年生国語・算数の12教科中の平均を上回った教科数 1-6年生の23の通常学級の内、指標を上回る学級数	12教科のうち8教科以上上回る	12教科のうち6教科以上上回る	12教科のうち4教科以上上回る	12教科のうち上回った教科が3教科以下	研修部	4	4	CRT検査の結果、12教科の全てで全国平均を上回った。昨年度と比較すると達成した数が8教科増えた。これは、帯タイム等を活用した基礎基本の徹底、教職員の授業改善などが効果につながったと考えられる。
		深い学びのある楽しい授業を創造する。	●考えをもたせるためのノート指導 ●考えを深めるための授業づくり	・「授業が楽しい」「授業がわかる」児童を85%以上にする。 ・「振り返りで、自分の考えがもてる」児童を90%以上にする。	児童の回答の割合 児童アンケート	児童アンケート	平均90%以上	平均87%以上	平均85%以上	平均85%未満	研修部	1	3	アンケートの結果、「授業が楽しい」と答えた児童は87.8%、「授業が分かる」と答えた児童は85.5%、「振り返りで自分の考えがもてる」と答えた児童は90.1%であった。平均すると87.8%になり、9月に比べて肯定的評価が2.9%増えた。3つの質問のうち、「授業が楽しい」が1.1%、「授業が分かる」が4.1%、「振り返りで自分の考えがもてる」が3.5%伸びており、学習内容の理解や学習に対して考えをもつ意識が伸びていることが伺える。
		いじめのない楽しい学校をつくる。	●いじめの早期発見・早期対応 ●学級集団作り	・学校に来るのが楽しい児童の割合を85%以上にする。	児童の回答の割合 児童アンケート	児童アンケート	肯定的評価90%以上	肯定的評価85%以上	肯定的評価75%以上	肯定的評価75%未満	生徒指導部	4	4	児童アンケートの結果、「学校に来るのが楽しい」と答えた児童は全校で92%と前期より1ポイント上がった。否定的回答の児童に対して個別に要因を聞き出し、解決策を考えていくことを継続的に行ったことが、高評価につながったと考える。来年度は「よくあてはまる」と回答する児童が増えるよう「よかった所見つけ」「ほかほか言葉集め」等、友達とのかかわりを大切にしたい取組を計画的に行っていく。
豊かな心	◎豊かな感性と思いやりの心をもつ児童の育成	東広島スタンダードを身に付けさせる。	●積極的に挨拶する	・保護者アンケートの「よくあいさつをする。」のアンケート項目において、肯定的評価を75%以上にする。	保護者の回答の割合 保護者アンケート	保護者アンケート	80%以上	75%以上	70%以上	70%未満	生徒指導部	1	1	保護者アンケートの結果、「よくあいさつをする」と回答した保護者は、全体で67%であった。保護者からは、家庭や地域であいさつができていない児童が多いと見られている。来年度は、年間を通して「あいさつ目標」を設定するとともに、学校便りや学年通信等で校内での取組を伝え、学校・地域・家庭が一体となって児童にあいさつする習慣を身に付けさせていく。
		読書の習慣を身に付けさせる。	●図書室の利用促進 ●読書タイムの計画的充実	・高学年60冊 中学年80冊 低学年100冊 読んだ児童の割合を90%以上にする。	目標を達成した児童の割合 月に10冊を目安に毎月調べて表にする	月に10冊を目安に毎月調べて表にする	100%以上	90%以上	80%以上	80%未満	教務部	3	3	低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊をめざして1年間読書を行ってきた。掃除後、10分間の読書タイム、学級での図書室利用、図書委員による読み聞かせ等、様々な活動を企画し、今年度は目標達成の児童が96.4%となった。来年度も引き続き読書の大切さを伝え、本に興味をもつ児童が増えるように様々な取組を行っていきたい。
		基礎体力の向上	●「走の運動」を意識した授業実践 ●体育委員会による「走の運動」の取組	・体カテスト48項目中、県平均以上が、男子30項目以上、女子30項目以上にする。	体カテストの結果 体カテスト	体カテスト	男女共に、目標値を大きく上回って達成	男女共に達成	男女のどちらかが達成	男女どちらも未達成	保健安全部	3	3	昨年度の全国平均比較によると、男子30項目、女子34項目平均を上回った。複数回実施したり、平均数値をクリアすると色がぬれビンゴになる体カムキムキビンゴを実施したり、個人の目標を決めさせたりして全国平均を意識して取り組むことにより、目標値をクリアすることができた。「50m走」や「握力」に課題があるので、授業で体幹トレーニングや鬼遊びを実施したり、体育委員会による「環境つくり」「走運動」「ドッジボール大会」等の取組を行ったりしていく。
健やかな体	◎くじけない強い意志とたくましい体を備えた児童の育成	生活習慣の確立	●通信・講師による講話等による啓発と取組経過の発信	・生活リズムアンケート内の「はみがき」の習慣化(平日朝・昼・晩、土日朝・晩)7/7の達成児童を70%以上にする。	目標を達成した児童の割合 生活リズムアンケート	生活リズムアンケート	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	保健安全部	2	3	第1回目(6月)実施・・・64%(469/732) 第2回目(9月)実施・・・69%(497/721) 第3回目(1月)実施・・・73%(502/690) 1～3回目の合計・・・68.5%(1468/2143) 歯みがきの実施が全部○になる7の児童の割合は、第3回目は73%であった。歯みがきについて声をかけると、1回目より3回目の方が達成率は向上していた。しかし、朝・晩の家庭での歯みがきができていない児童がおり、歯みがきの意識が低い児童がいたり、習慣化できていない児童が固定化したりしているので、これからも保健委員会による「歯みがきウィーク」の実施や通信等による保護者啓発を行い、歯みがきの習慣化を図っていく。
		●欠席児童への確実な連絡・連携により欠席率を下げる	・1日あたりの欠席児童の割合を1.6%以下にする。	1日当たりの欠席児童の割合 日々の欠席児童数の集計	日々の欠席児童数の集計	1.5%未満	1.5%以上 1.6%未満	1.6%以上 1.7%未満	1.7%以上	総務部	3	1	令和2年2月19日現在、授業日数171日において延べ欠席数2,544人、1日の平均欠席数14.9人となっている。児童数に対する割合は1.94%となり、目標値をクリアできていない。昨年度と比較すると、9月の欠席数が約1.7倍(177→305)、1月と2月を合わせた欠席数が約1.8倍(494→907)となっている。9月については、長期休業明けに低学年を中心とした登校渋り、12月はインフルエンザ等の流行が大きな要因として考えられる。今年度、欠席日数30日を超える児童が現在6名いるが、うち5名は家庭の事情や入院治療によるものであり、いわゆる不登校児童数は昨年度の4名から1名に減少している。欠席日数が15日以上30日未満の長期欠席児童も昨年度の同時期の14名から7名に減少しており、組織的な取組の成果を実感している。	
		児童・保護者・地域への誠実な対応	●受容的な温かい学級経営	・「地域や保護者に気持ちのよい対応をしている。」のアンケート項目において、肯定的評価を90%以上にする。	保護者の回答の割合 保護者アンケート	保護者アンケート	95%以上	90%以上	85%以上	85%未満	総務部	4	4	「地域や保護者の方々に気持ちのよい対応をしている」の項目においては、第1回目のアンケートから微減しているものの97%を超える肯定的評価を得ている。「家庭との連携」や「子どもとのふれあい」、「わかりやすい授業」については、肯定的評価が2～3%増加し、「子どものトラブル対応」については、約7%増加している。引き続き保護者や地域の信頼を得るため、児童や保護者、地域の実態やニーズに応じた教育活動が展開できるよう全教職員で「チーム学校」として取り組んでいくとともに、その取組内容についても、情報発信を続けていく。
その他	◎信頼される学校づくり ◎健全な職場づくり	校舎内外の美しい環境づくりの推進	●環境チェックリストの実施	・環境チェックリストを毎月1回以上実施する。	実施回数 環境チェックリストを毎月実施し、環境整備の状況を把握する	環境チェックリストを毎月実施し、環境整備の状況を把握する	12回以上(前期6回以上)	10回以上(前期5回以上)	8回以上(前期4回以上)	8回未満(前期4回未満)	総務部	4	4	環境チェックを2月末現在11回実施した。3月にもう一度実施予定である。月1回、参観日や学校行事等で来校者がある日を中心に実施した。後期からは、特別な支援を要する児童の視点に立った教室環境整備についてもチェックを行い、環境整備に努めている。また、児童の掃除に関して、掃除後に「振り返りタイム」を導入するなど、取組方法を見直した。今後も、学校全体で普段からきれいな学校づくりができるよう取り組んでいく。
		働き方改革の推進	●学年設定時刻による退校の実施	・80%以上の実施	実施割合 衛生委員会で実施状況を確認する	衛生委員会で実施状況を確認する	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	総務部	1	1	達成率は69%で、前期の60%よりも向上したが目標を達成することはできなかった。主幹通信を発行し、中央教育審議会から出された学校における働き方改革に関する答申を教職員に紹介し、早期退庁に対する意識を高めるように努めた。各学年部で設定した早期退庁が確実に実施されているとは言えないが、時間外勤務の平均時間は30分程度短くなっている。教職員の働き方に対する意識をさらに高めるとともに、業務改善の見直しを図り、時間外勤務のより一層の縮減を図っていきたい。